

我が病歴と終活

札幌市医師会
札幌東和病院

池下 照彦

この年齢（昭和生まれ）になりますと年賀状の枚数も減りますし、同期の連中も年々他界し、何十年も診療してきた患者さんたちもひとりふたりとお亡くなりになったりします。

人間は、生まれてすぐに動脈硬化が始まり、それがすなわち年齢であり、個人差はあっても、百歳以上の高齢者が何万人もいらっしゃる時代ですが、いずれにしろ、人生に終りが来るのです。いろんな終わり方があるにしろ、最期はもっと光をとったというゲーテなのか、ありがとうと言ったり、ニッコリ笑顔を見せるのか、自分はどののだろうかと思う昨今です。多分ですが女房に感謝し、マンゾクな人生だったと思いたいものです。終活とは人生を終える準備をする活動ということでしょうか。簡単に言うと身辺整理をしろということでしょうか。余分なものは捨てて、残せるものがあれば法的にきちんと振り分ける、葬儀は家族葬にして密やかに散骨してくれとか遺言することなのでしょうか。ここまで書いて、まだまだお若い先生方には耳障りかなと思いましたが本題に行きます。本題といっても、自分はどんな状態（病気）で終わるのかなと過去の病歴をふり返る、なんともつまらないことで申し訳ありません。

まず、子供のころは、ハシカや水疱瘡を患ったろうと思います。昔は普通に流行し、兄弟全員が枕を並べてハシカで寝ていたなんてことがありました。

皆んな免疫が自然にできたものですよ。曲者は水疱瘡です。これは何十年もの潜伏期間を経て帯状疱疹という訳の分からぬ病状を呈することが結構あるのですよね。小生はおたふくカゼ（流行性耳下腺炎）になった記憶があります。高熱（たぶん40℃位）でせん妄状態のときに、祖母が氷菓子（氷のように硬い甘いお菓子）を舐めさせてくれたのを思い出します。めったにないこと（戦時中だから）なので得をしたと思ったものです。おたふくカゼは副睾丸がやられて不妊になるかもといわれていましたが、3人の子供ができましたので、大丈夫だったのも氷菓子のおかげだったかもです。

次は、中学1年のころ寝汗と微熱があり、父が肋膜炎（結核性胸膜炎）を若いころ患ったとかで心配して当時函館市に住んでいましたので、七重浜の結核療養所に連れて行かれ、胸部単純写真（古いやつ）をシャウカステンもないころで窓明かりに透かして見て、初期感染巣があると診断されました。そのこ

ろ日本にも出はじめたPASを内服させられ、栄養のためとバターをパンにぬって毎日食べ、しかも学校を1ヵ月休むことになり、内心うれしかったのですが、すぐ元気になり、今にして思うと思春期病だったのでないかな、自律神経症かなと思うのです。老令のいまも自律神経が不安定のとことがあります。体質的ですかね。

その後の小生は大変元気に育ち、野球少年となり遊んでばかりで勉強はしない不良少年と呼ばれていたのですが、中3の3学期から突然勉強少年となり、高校は3回転校しました（父が公務員のため）が猛勉強し、何とか多分ぎりぎり北大医進へ入学し医者になったのでした。（卒業したのは札幌医大です）。

さて、しばらくは元気でしたが、40代後半に開業準備に追われ、ストレスからか心室性期外収縮がみられ、多分心因性のものだろうと診断され、自律神経症かと思っていたら、間もなく右耳痛のあと、回転性のめまいが現われ、脳外科で前庭神経炎かなと言われました。このめまいは数年に1度短時間、精神的に不快不安の思いの後起こり、内耳障害とされて内服中です。聴力は保たれています。

さて問題なのは带状疱疹です。例の水疱瘡ウイルスが右肋間神経に沿って来ましたよ。はじめは右背あたりが痛いので、ボウリング（小生のアベは200位です）のせいかと思いきや、水疱が多発していました。数日経ていてしかも休日も重なり、抗ウイルス剤を内服せずにいたら重症化し、右乳首がもげるかと思う程となり、しかも全身に播種しました。自信過剰でしたね。しかし、2ヵ月程で跡形もなく治癒し痛みもなくなりましたが、ここに落とし穴あり、左角膜樹枝状潰瘍となり開眼不能状態、流涙ひどく、日曜日でしたが眼科受診し、コンタクトレンズを入れてもらい一息つきましたよ。以来潰瘍は完治しましたが、ドライアイのため眼薬を点眼中です。10年前のことでした。またまたこれからやばい病気です。血尿が出た！ 早速、膀胱鏡や尿路系の造影CT、尿細胞診、PSAなど繰り返し検査し、癌ではなさそうだが経過をみようという昨今です。

皆さん、2人にひとりには癌になり、3人にひとりには癌で死ぬ時代ですよ。小生、糖尿病やメタボはないので選択肢は癌ですね。前立腺あたりがあやしいのですが、いずれにしても、なるときはなる。老人医療は人事を尽くして天命を待つ。これを言いたかったのです。人生第4コーナーを、まだまだ元気で走る現役の老医のたわごととご容赦ください。